

「ノートや作品のまとめ方」

世田谷区立武蔵丘小学校 諸角 哲男

1 どうして「ノートや作品のまとめ」が大切なのか？ ～新学習指導要領から～

学 年	「技能」に関する目標	「表現力」に関する目標
3 年	・調査活動、地図帳や各種の具体的な資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。	(前略)、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
4 年		※考えたことや選択判断したことを文章で記述したり図表などに表したことを使って説明したりして表現する力を養う。
5 年	・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。	(前略)、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
6 年	・地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的な資料を通して調べまとめる技能を身に付ける。	※考えたことや選択・判断したことを根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立場や根拠を明確にして議論したりする力を養う。

※小学校学習指導要領解説社会科編 文部科学省 平成29年6月

2 ノートの機能

- ① 練習帳的使い方
 - ② 備忘録的使い方 ・・・観察メモやインタビューメモ
 - ③ 整理保存的使い方 ・・・書きながら整理・保存（記録）することで、より明確になる。
 - ④ 探究的使い方 ・・・新しい考えが見えてきたり、間違いに気づいたりする。
- ※①②を基礎として、③④の段階へ発展させていくことが大切。

3 「問題解決的な学習を支えるノート」指導のポイント

<ul style="list-style-type: none"> ① 本時のめあてについて解決していく過程（問題解決）が見えるようなページ構成にさせる。（1時間の授業で、見開き1ページでまとめる。） ② 本時のめあてに対しての自分の考えや予想を書かせる。 ③ 文章は箇条書きで短い文章で書かせる。絵や図、グラフなども使って分かりやすく整理させる。 ④ 話し合いのあとに友達の発言について加筆する時間を設ける。（ノートをもつての意見交流の場などを積極的に取り入れる） ⑤ 分かったことを枠で囲んだり、下線や色分け、矢印でつないだりして、比較・分類・関連付けをしながら整理させる。 ⑥ 1時間の最後に、学習のまとめとして「分かったことや考えたこと」「自分の学びの振り返り」を自分の言葉で書かせる。 ⑦ 教科書の「学び方コーナー」「ノートの見本」などを参考にノートの書き方のポイントを共通理解する。 ⑧ 子供の実態に応じてノートのモデルを示したり、上手な子供のノートのコピーを掲示したりして参考にさせながら全体のレベルアップを図る。 ⑨ 教師が子供のノートを集めて、一人一人の学習状況を評価するとともに、次時の指導に生かすようにする。

4 見開きノートの書き方の例 (調べる段階の1時間のノート例)

<p>① (○/○) 本時のめあて</p> <p>日付と本時のめあて (学習問題・本時の問い等) を書き、枠で書こう。</p> <p>② 予想</p> <p>本時のめあてに対する自分の予想を書く。(友達の予想を聞き、自分になかった予想など、必要なものは追記させる)</p> <p>③ 資料・調べて分かったこと</p> <p>配布された資料 (黒板に掲示する資料を縮小したもの) を貼る。</p> <p>・資料から読みとったこと、教科書や資料集等を活用して個人で調べたことを、箇条書きで書く。</p>	<p>④ 調べて分かったことをもとに考えたこと</p> <p>・本時のめあてと対比させ、③の記述や友達との交流、話し合い等を経た、考えを書かせる。</p> <p>※ノートは、鉛筆で書き、大事なところは赤を使う。友達の意見は青を使うなどする。色の使い方については、クラスで共通に決めておく</p> <p>⑤ 学習のまとめ</p> <p>・本時のまとめとして「学習して分かったこと考えたこと」に加えて「自己の学び」に対する振り返りを書かせる。自分はどのように学習を進められたか、次の課題は何かということを書かせる。</p>
---	---

5 実際のノート例 5年生

<p>6/24 (木) 6/24 (めあて)</p> <p>西川さんたちはどこでどのようにしてマグロを取っているのだろうか?</p> <p>予想</p> <p>・自分だ、たら... <友だちの考え></p> <p>重岡 マグロが いる所? しかけたあみ?</p> <p>松下 大分はなれた海 ふじ 潮日に行く? (プラニクトン) 探知機?</p> <p>島田 海流?</p> <p><自分の考え> (P.1見出し)</p> <p>西川さんたちは、遠い海へ行 って、魚群探知器を使ってマ グロをさがしたり、延縄を使 って魚を取ったり、機械を使 ったりしている。</p> <p>P.2全部 P.1 魚群探知器 (ことあります)</p>	<p>(友だちの考え)</p> <p>阿部 1年半かける 関 魚群探知機 ← 魚をさがす はえなわっから 松下 遠洋魚業</p> <p>守安 お金 ← たくせんかかる</p> <p>(ふり返り)</p> <p>今日は、日本船が、エサして マグロを取っていることが分 かりました。延縄などの枝を 使、てエサしてマグロを取 ていることも分かったし、長 下圍、家族とはなれてリ、う をするのはつらいたろうなと 思いました。でも、長い間、 者にもとらないと、マグロが くさてしまわれないのかなと 思いました。</p>
---	--

6 各学年の作品のまとめ方

学年	単元	まとめ方例	
3・4年	身近な地域や市の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・探検マップづくり（探検したことを白地図にまとめる） ・主題図づくり（鉄道、川、土地の高低、建物など） 	
	地域の生産や販売に関する仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の仕事（農家や工場）マップづくり ・地域のお店（スーパーマーケットや商店など）マップづくり 	
	地域の人々の健康な生活（飲料水・電気・ガスの確保、ごみ・下水の処理）	<ul style="list-style-type: none"> ・水（電気・ガス）の旅をイラストでまとめる。 ・ごみ（下水）処理（家庭から最終処分場まで）をイラストにまとめる。 ・ごみ減量に向けたポスターづくり 	
	地域の人々の安全を守るために諸活動（消防・警察）	<ul style="list-style-type: none"> ・火災から暮らしを守る仕組みの関係図づくり ・安全マップづくり ・事故や事件を防ぐ仕組みの関係図づくり 	
	地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展につくした先人の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・絵年表づくり（道具と人々の生活の様子） ・先人の働きを4コマまんがや紙芝居にまとめる 	
	県の様子、県内の特色ある地域	<ul style="list-style-type: none"> ・県のイラストマップづくり（特産品など） ・特色ある地域と人々の暮らしを一覧表にまとめる ・県自慢パンフレットづくり 	
		国土の自然と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図（日本）への作業 ・特色ある地域の人々の暮らしのパンフレットにまとめる
		食料生産と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りや漁業の仕事や働く人の工夫、消費地に届けられるまでをパンフレットにまとめる
	5年	工業生産と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の工業地帯等の分布を白地図に表し、特色をまとめる。 ・工業生産新聞づくり
		情報産業と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を受信する側と発信する側の気を付けることを対比してまとめる ・情報活用についての討論会を行い、学校のホームページに掲載する。
6年	日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の特徴、人物や文化を説明するレポート（イラストや表などを加えてノート等にまとめる） ・テーマを決めた歴史新聞（「室町文化新聞」「幕末新聞」など）づくり ・日本文化の体験レポートや解説書づくり、継承者へのインタビュー記事の作成 ・学習した人物への手紙、人物から人物への手紙（「家光から家康へ」など） ・人物年表づくり ・人物関係図づくり（「信長・秀吉・家康」「西郷・大久保・木戸」など） ・人物へのインタビュー記事、体験者へのインタビュー記事づくり 	
		わたしたちの生活と政治	<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた事例（公園や高齢者施設など）ができるまでのパンフレットづくり ・国会・内閣・裁判所の働きの図解
		世界の中の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた国の新聞やパンフレットづくり

7 まとめ方の段階の作品作りのポイント

◇まとめの段階の役割

- ・学習問題の解決を図る

- ① 追究段階で調べ考えまとめてきたノートや作品を振り返り、吟味・修正を加える。
- ② ①をもとに、学習問題に立ち返って、その解決を図るための話し合い活動を行う。
- ③ ②をもとに、自分の考えをノートや作品などにまとめる。

- ・これからのことを考えたり、自分なりの意思決定をしたりする

- ① 稲作農家の工夫について調べたのちに、果物や野菜農家の工夫を考える。
- ② ごみの始末について学習したのちに、ごみ減量を促すための標語を考え、行内に掲示する。
- ③ 警察の仕事について学習したのちに、「安全マップ」を作成する。
- ④ 家光になったつもりで家康に手紙を書く。
- ⑤ 学習した時代のできごとで、もっとも大きな変化のきっかけとなったことは何かを、理由を加えながら討論する。

◇作品づくりの留意点

- ・見通しをもった活動とすること

つかむ段階の学習計画を立てる段階で「どのようにまとめるか」と問いかけ、まとめ方について

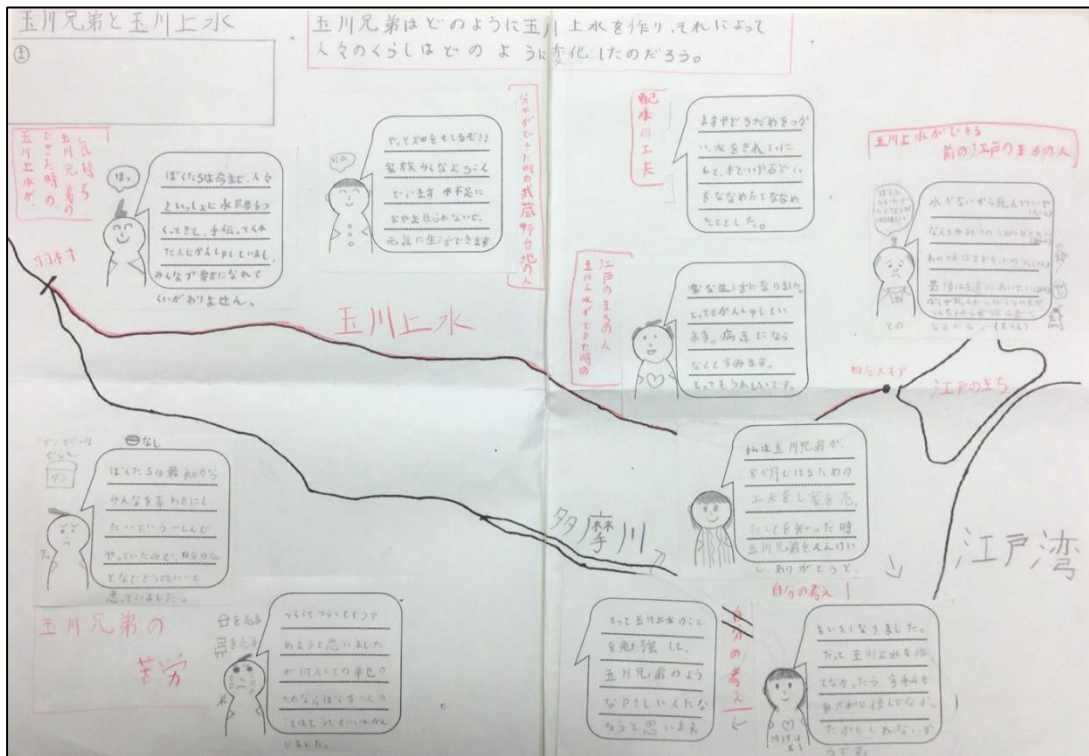
もあらかじめ見通しをもたせるようにする。

調べる段階で毎時間まとめとしての記事を作る ⇒ 最後に新聞やパンフレットに構成する

8 まとめの作品例

平成 26 年度都小社研 4 年部会実践 「地域の発展に尽くした人々（玉川兄弟と玉川上水）」より

※「玉川上水マップ」に毎時間のまとめを記述することを通して、学習の流れと子供の思考の流れが対応し、毎時間の子供の変容を見取り、次時の学習や毎時間の評価に生かすことができる。



※参考文献 「ステップ解説 社会科授業の作り方」 澤井陽介・中田正弘 著 東洋館出版社 2014